

【専門教育科目/看護研究】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護研究Ⅱ	NSP45_001	必修	2	4	通年
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 文子 他	418	fumiko.sakamoto	指導教員より提示する		
授業の目的・概要	看護研究は看護の質の向上に貢献するものであり、看護研究の成果は、看護実践の根拠として看護の対象である人々への支援に還元される。また、社会における看護の必要性を示すとともに看護を説明することを可能にする。 本科目では、看護研究Ⅰで学修した内容を活用して、授業や実習を通じた自己の看護実践上の疑問や問いから研究課題を設定し、文献検討、研究計画の立案という一連の流れを教員の指導の下で体験し、将来的に看護研究活動を遂行できる力を養う。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目には、3年次必修科目の「看護研究Ⅰ」で学んだ知識が必要となるので、看護研究Ⅰを復習した上で臨むこと。 ・研究の実施は任意であるが立案した研究計画のデータ収集や分析の適切性を確認するためにプレテストや本調査を実施することで、研究活動を遂行できる力がより養われると考える。 ・自己の研究の成果発表に向けて、指導教員より情報を得て、学術集会等の研究発表の場に参加し、一連の研究プロセスと実践への活用についてイメージできる。 				
教科書	看護における研究第2版/南裕子他編/日本看護協会出版会/2017				
参考書	APAに学ぶ看護系論文執筆のルール/前田樹海・江藤裕之著/医学書院/2013 その他、指導教員より適宜提示する。				
外部教材	なし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	授業や実習で得た自己の看護実践上の疑問や問いを明確化し、表現できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
②	文献検索・文献検討を元に研究疑問を明確化し、研究テーマ・目的・意義を記述できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
③	研究目的に合った研究方法を考え、記述できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
④	看護研究における倫理的配慮とその重要性について、説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
⑤	研究計画に必要な要素を含んだ研究計画書を作成できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
⑥	主体的・計画的に取り組むことができる。		HSU(1)(2)、NS(1)(2)		
⑦	看護研究の意義を説明できる。		HSU(1)(2)(3)(4)(6)、NS(1)(2)(3)(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1~30	領域ごとに学生を配置する。 1. 自己の看護実践上の疑問や問いの明確化 2. 文献検索 3. 文献検討 4. 研究テーマ・目的の検討 5. 研究デザインの検討 6. 研究方法の検討 7. 研究実施における倫理的配慮の検討 8. 研究計画書の作成 9. 研究の実施 (任意) 10. 研究者の成果発表の場に参加する (任意) 11. 成果発表 (領域別)に実施	講義 演習 GW プレゼンテーション 討議	・これまでの授業や実習で得た自己の看護実践上の疑問や問い、興味、関心を持った分野の先行研究を自主的・積極的に調べる。 ・担当教員の指導を元に、主体的に学習計画を立てる。 ・自ら進んで指導を受ける心構えで、積極的に担当教員にアポイントメントをとり、資料を整えた上で授業に臨む。 ・成果発表の準備・運営は学生主体で行う。		
試	達成度評価・評価のポイント参照		各回 1		

【専門教育科目/看護研究】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	40	10	50	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	50	0	50
		問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
レポート	①	✓	A4 用紙 40 字×25 行、3 枚以上 8 枚以内 別に表紙 (研究テーマ・学籍番号・学生氏名・指導教員名、提出年月日) をつけ、左上 1 箇所をホチキス止めし、担当教員に提出する。 提出期日：原則として 10 月末日				担当教員が評価し、必要に応じ学生にフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
成果発表	①	✓	領域別)に実施する。指導教員の指示に従い資料を作成する。当日に向けた準備やリハーサル、進行は、教員の指導のもと学生主体で行う。				成果発表に対し、教員から学生にコメントを伝える。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
ポートフォリオ	①		学習スケジュール・文献カード・配布資料をファイリングし、自己管理していく。これを用いて、評価のための最終面接を実施する。また、日々の学習態度、レポート作成への取り組み姿勢を含め、総合的に評価する。				内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥	✓					
	⑦	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	次に示す教員が学生の指導にあたる。また、教員の補助者として助手が指導する場合もある。 ◎坂本文子 (科目責任者)、看護学科教員全員						
教 員 の 実 務 経 験	<ul style="list-style-type: none"> ・科目責任者は、看護師として臨床経験 15 年、大学教員として看護基礎教育を 15 年以上経験する。 ・教育を担当する教員は、看護職としての実務経験、大学教員としての学生指導の経験を有する。 						
実 践 的 授 業 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員は、看護職としての実務経験、臨床経験および今までの学生指導で得た経験、研究への関心や研究成果の紹介を交えて、学生が研究プロセスをイメージしやすく、研究に関心が持てるよう工夫をして、授業を進める。 						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・本シラバスは一定の方針を示したものであり、詳細については領域の裁量に委ねられる。 ・レポート提出や成果発表の詳細等は指導教員の指示に従うこと。 ・自ら進んで指導を受ける心構えで臨み、計画的に進めること。 ・主体的に指導教員と連絡を取り、積極的な態度で臨むことを重んじる。 ・担当教員によっては一部 Teams を使った同時双方向型授業を行うため、通信容量無制限の Wi-fi 環境を推奨する。 ・今後の社会情勢によって、シラバスの内容が一部変更となる可能性がある。 						